

○「へべす」は日向市発祥の香酸かんきつで、平成28年から管外(県内)での栽培が可能となった事により、主産地として生産量や品質向上が課題。

○JA日向平兵衛酢部会(75戸)は、へべす発祥の地として他を牽引する産地を目指し、ひなたGAP団体認証取得の機運が高まったことから、普及センターとして認証取得を重点支援。

○まず、個人認証取得に向けた意識醸成を行い、次に団体認証取得へ誘導。

○関係機関等が一体となった支援体制を構築し、合意形成活動や改善指導を行い研究会を発足させ団体認証を取得。

具体的な成果

1 個人認証から団体認証へ

■他産地を牽引するために、ひなたGAP個人認証を取得するなど、核となる生産者が育った。

■個人認証取得者を中心に、JA日向平兵衛酢部会GAP研究会(10戸)が発足。

関係機関・団体とも合意形成が図られ、団体認証を取得。



2 GAPに対する意識の変化

■農場の統ルールールの検討など、団体認証取得に向け一体的に取り組んだ事により、GAPの取組内容が理解された。

認証取得後は倉庫のレイアウトや記録の方法などの改善に積極的に取り組むようになった。



普及指導員の活動

令和元年

■部会リーダーに対してGAPについての理解を得た上で、1戸の生産者のGAP取得を支援し、既取得者を含め2名の核となる生産者を育成。

令和2年

■新たに4戸の認証取得に向け、必要書類や作業舎の整備等について指導を実施。

また、効果的で実践的な改善方法等について、既取得者2戸も含めた現地検討会を企画し、意見交換ができる場を設置。

令和3年

■GAPの実践を部会の取組として位置付け、関係機関等と連携し、GAP研究会が発足、実践可能な農場統ルールールの策定等を支援し、団体認証を取得。

令和4年

■団体認証を契機に、研究会以外の部会員への活動(情報)共有を行うと共に、更なるGAP取組改善に向けた検討を実施。

普及指導員だからできたこと

・平兵衛酢部会や関係機関で構成する技術員会、宮崎大学(ひなたGAPコンサル)と連携を図るなど、コーディネート力を発揮したことで、団体認証取得に対する合意形成を図ることができ、JA日向平兵衛酢部会GAP研究会を発足させ、産地の新たなチャレンジを支援できた。

へべすひなたGAP認証取得支援

活動期間：令和元年度～4年度

1 取組の背景

「へべす」は、日向市発祥の香酸かんきつで、まろやかな酸味とさわやかな香りを持ち合わせ、幻のかんきつとも呼ばれている。

J A日向平兵衛酢部会（75戸、17ha）では、平成28年度に、へべすの生産地を県内全域に拡大したことに伴い、平成29年度に産地戦略ビジョンを策定し、へべす発祥の地として県全体を牽引する産地を目指してきたなかで、ひなたGAP団体認証取得の機運が高まったことから、認証取得を重点的に支援した。

2 活動内容

（1）核となる生産者の育成（R1）

GAPの取組を部会内に拡大するにあたって、核となる人物が必要と考え、ビジョン生産力強化班員であり、他の部会員への技術指導等も行っている部会の中心的な生産者2戸に対しGAPの取組の目的について説明を行い賛同を得た。

まず、この2戸に対してひなたGAPについての勉強会や現地確認等の個別支援を行い、ひなたGAP認証取得に向けて支援を行った結果、1戸の生産者が取得した。

この認証取得者と平成30年認証取得者の2戸を中心にGAPの取組拡大に向けた活動を行った。

（2）認証取得者の増加（R2）

GAP認証取得に興味を示している部会員4戸に対し、認証取得に向けた支援を行った。

①勉強会の開催

新規でGAP認証取得を希望する部会員を対象に、ひなたGAPについての勉強会や認証取得者の取組事例紹介を実施した。勉強会では、認証取得者の2戸にGAPを実践した感想やアドバイスなどをお願いした。

②現地確認による改善方法の検討

各生産者の取組状況について現地確認を実施し、ひなたGAP青果物の基準に基づき、改善方法等を検討した。改善方法は一方的に提案するのではなく、生産者と共にどんな方法ができるかを検討した。現地確認は複数回行い、技術員だけでなく他の生産者にも参加してもらい、お互いの進捗状況を確認しつつ、工夫点等の意見交換ができる場を設けた。

（3）産地一体となった団体認証取得（R3～4）

令和2年度で、ひなたGAP個人認証取得者が合計6戸となった結果、さらに取得を希望する部会員も出てきたため、GAPの実践を部会の取組として位置づけるためにも団体認証取得に向けた支援を行った。

①関係機関・団体との合意形成

団体認証取得にあたって、J Aを初めとした関係機関・団体の協力は不可欠であり、技術員会の定例会や宮崎大学によるひなたGAPコンサルを通じて協議を重ね、団体認証取得に対する生産者・関係機関・団体の合意形成を行い、団体認証取得に向けてJ A日向平兵衛酢部会GAP研究会を発足させた。また、GAP研究会発足にあたり各関係機関・団体に内部監査員等の役割を分担した。

②勉強会の開催

新規でGAP認証取得を希望する部会員を対象に、ひなたGAPについての勉強会を実施した。勉強会では、個人認証と同様に認証取得者にアドバイスなどをいただき、生産者

同士の意見交換も実施した。

③農場ルール検討会

団体認証で必要となる適合基準63項目に係る農場ルールを作成した。ルール作成にあたっては、JA、普及センターだけで完結させず、研究会員と共にルールの検討会を行い、実践可能な農場ルールとして完成させた。

④現地確認による改善方法の検討

現地確認を実施し、作成した農場ルール63項目を1つずつ確認しながら、改善方法等を検討した。改善方法の検討は個人認証と同様に、生産者と共に検討を行い、生産者同士の意見交換の場も設けた。

3 具体的な成果

(1)GAPへの取組意識の変化

認証取得前は、GAP認証のみを目指していた生産者が、勉強会及び現地検討会を通じてGAPの取組内容を理解し、認証取得後も自らがGAPの取り組みを継続しやすいように倉庫のレイアウトや記録の方法などについて、積極的に改善に取り組むようになった。

(2)個人認証から団体認証へ

ひなたGAP個人認証を令和元年度に1戸、2年度に4戸が新規に取得した。団体認証取得に向けて関係機関・団体の合意を得たことで、部会を含め産地一体となってGAPに取り組む体制が整備され、GAPの実践を部会の取組として位置づけることができた。

令和3年度には、元年度に認証取得を断念した生産者を含む6戸が新たにひなたGAPに取り組み、うち2戸はGAPの目的や内容を理解した上で、認証取得に向けた準備には時間が必要ということで一時保留としたが、残りの4戸と個人認証を取得している6戸を合わせた10戸で団体認証を取得する事が出来た。

また、認証取得後も自らの農場ルールの改善に取り組むなど、GAPへの取組意識が浸透してきている。

4 農家からの評価・コメント(へべすGAP研究会)

GAPに取り組んだおかげで、農場ルールの作成や農産物取り扱い施設等の整理による作業の効率化、在庫管理による農薬等資材の無駄が減少する等の効果があり、今後も継続していきたい等の意欲的な声が多かった。

5 普及指導員のコメント(東臼杵農林振興局 主査 藤元暁彦)

関係機関・団体と合意形成を行い、それぞれに役割を与えたことで、産地一体の取組にすることができた。

核となる生産者を中心にして、GAPの取組を広げたことで、スムーズな波及ができた。

勉強会や巡回で生産者からのアドバイスや生産者同士の意見交換の場を設けたことで、現場に寄り添った支援ができた。

6 現状・今後の展開等

ひなたGAP認証取得者拡大に向けて、既にひなたGAPを取得している部会員及び関係機関・団体と連携して支援し、へべす発祥の地として他産地を牽引する産地として取組を進めたい。